

サークルKサンクス 2013年7月度月次営業報告

【売上】

		当月	累計
既存店	日販(千円)	486	465
	前年比(%)	97.0	96.6
	客数(人)	827	780
	前年比(%)	98.0	96.8
	客単価(円)	587	596
	前年比(%)	99.0	99.9
全店	売上高前年比(%)	101.9	101.4
	日販(千円)	479	459
	前年比(%)	97.0	96.6

※【売上】: エリア会社を除く単体ベース

【店舗数】

		当月	累計
本体	開店	41	175
	閉店	12	85
	月末	5,419	
エリアFC	開店	4	17
	閉店	28	41
	月末	889	
グループ合計	開店	45	192
	閉店	40	126
	月末	6,308	

【概況】

当月は手巻おにぎり全品100円セールの影響に加え、チルド弁当の伸長により、米飯分類が前年を上回りました。また、オリジナルデザート『シェリエドルチェ』では、1日限定発売の「窯出しプレミアムプリン」がご好評をいただき売上が大幅に伸長したほか、カウンターフーズは『淹れたてコーヒー』の寄与により当月も前年を上回りました。加えて、調理パンや青果・日配品の各カテゴリーが好調に推移した結果、中食商品全体の基調は引き続き回復傾向を示しました。一方、たばこ売上は引き続き前年を下回り、既存店売上は1.5～2.0%程度の押し下げ影響を受けました。

※ 本資料の売上状況は速報数値のため、監査法人の監査は受けておりません。



ユニグループ・ホールディングス

UGHD

※2012年9月度より上表の売上・店舗数の数値のみの開示に変更したが、アナリストからの要望を受け、10月度より上記の【概況】のみ復活。

【商品別の状況】

- ・ 寿司分類や弁当分類は前年を下回ったものの、おにぎり分類では全品100円セールが奏効し前年を上回った結果、米飯全体の基調は大幅に改善しました。
- ・ 導入店舗数の拡大に伴い、淹れたてコーヒーが前月に引き続き大きく伸長したほか、同じく導入を進めているフライヤーにおいても、看板商品の「串カツ」シリーズをはじめ好調に推移しました。
- ・ サービス分類は、チケットの伸長に加え、ネットプリカの好調により、サービス全体でも前年を上回りました。

【プレスリリース】

- ・ **8月16日付：「組織改編および人事異動」**
→ 2012年度下期の組織改編および人事異動を発表しました。2013年2月21日からの持株会社「ユニーグループ・ホールディングス」体制への移行を見据え、グループシナジーの最大化を目的に、ホールディングスに関わる業務を集約いたしました。
- ・ **8月29日付：客層拡大に向け駄菓子コーナーを一新**
→ 駄菓子はシニア層から孫への買い与え需要の拡大が見込まれるほか、「サークルKサンクス＝お菓子を買える身近な場所」として認知度を高めることにより、他業態からのシニア層やファミリー層の獲得を目指します。
- ・ **8月30日付：「シェリエドルチェ～和ごころ～」発売**
→ オリジナルデザートの新たな“和”シリーズとして、「シェリエドルチェ～和ごころ～」を9月13日より展開します。これまで培ってきた洋菓子のノウハウを組み合わせた和スイーツを幅広く品揃えすることにより、シニア層や女性客層を中心とした客層の拡大に取り組んでまいります。

株式会社 **サークルKサンクス**